



橋本 はしもと

理恵子 りえこ

元琉球放送記者

東京都議会選挙が行われた先月のこと。何気なく家の外の通りを眺めていた。遠くから選挙カーが近づいてくる。

「よろしくお願いしまーす」ウグイス嬢の甲高い声がいよいよ迫ってくると思われたが、わが家の前を通る時、マイクは切られ、選挙カーは無言で通り過ぎていった。そしてしばらくして、再び「お願い」の声が聞こえてきたが、すぐに遠ざかって行った。

なぜマイクが切られたのか、一瞬間に思ったが、すぐにその理由が分かった。わが家の向かいは中学校なのだ。平日の昼下がりに、授業の妨げにならないようにとの配慮だったと気がついた。

選挙活動といえば血眼で絶叫、というイメージなのに、こんな心配りができるなんて、すごい。政策にも期待できるかも…と思っていたのだが、その後分かったことがあった。

どうやらそれは「選挙の

南風

政治に求められるものは？

マニユアル」らしいと。学校や病院などの近くでは、選挙カーのマイクを切るように、選挙の手引きには示されているというのだ。

実は公職選挙法に、それらの周辺では「静穏を保持するよう努める」ことが規定されていた。

私としては、すごく感激したのに、自主的なルールでもなく、それが単に機械的な作業にすぎなかったかも…と思うと、少々残念な気持ちになり、何だか味気ない気分になった。

しかしよく考えてみれば、選挙中といえども、そういう施設の周辺では、むやみに大きな音を立てないのが、マニユアルというより、むしろ常識といえるかもしれない。

そんな「常識」の外にあるのが、沖縄の米軍基地周辺だろう。学校や病院といえども、昼夜を問わず、騒音にさらされている。

政治に求められているものは、何だろう。